

<p>第5期横浜市子ども・子育て会議 第6回保育・教育部会 第33期横浜市児童福祉審議会 第8回保育部会 合同部会 公開議事会議録</p>		
日 時	令和3年11月15日(月) 18時30分～ 21時00分	
開催場所	市役所18階 みなと4・5会議室	
出席者	石井部会長、山瀬副部会長、中丸委員、大澤委員、尾木委員、荻込委員、天明委員、森委員、大庭委員、新堀委員	
欠席者		
開催形態	公開(一部非公開)	
議 題	<p>1 議事<公開案件> 【子ども・子育て会議】 (1) 横浜市子ども・子育て支援事業計画における保育・教育に関する「確保方策」の中間見直しについて</p> <p>2 議事<非公開案件> 【子ども・子育て会議】 (1) 私立幼稚園等預かり保育事業実施園の新規認定について</p> <p>【児童福祉審議会】 (2) 認可保育所の法人変更に伴う認可について</p>	
議 事	<p>石井部会長</p> <p>事務局</p> <p>石井部会長</p> <p>大庭委員</p> <p>事務局</p> <p>大庭委員</p>	<p>まず、議事(1)横浜市子ども・子育て支援事業計画における保育・教育に関する「確保方策」の中間見直しについて事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>議事(1)横浜市子ども・子育て支援事業計画における保育・教育に関する「確保方策」の中間見直しについて説明。</p> <p>ただいまの事務局の説明について質問や意見がございましたら、お願いいたします。</p> <p>公開案件のため、資料は公開されるということで良いか。</p> <p>はい。</p> <p>資料3の推計児童数の表では、令和2年度の0歳児は2万5,745人、令和3年度の0歳児は2万4,615人となっているので、令和4年度の1・2歳児はその合計数となる5万360人になるのではないかと思います。</p> <p>しかし、資料3の令和4年度の1・2歳の推計児童数は、5万3,034人となっており、2,674人増えているのはなぜか。</p> <p>また、令和3年度の0歳児は2万4,615人、令和4年度の0歳児は2万3,715人となっているので、令和5年度の1・2歳児はその合計数となる4万8,330人になるのではないかと思います。</p>

		<p>しかし、資料3の令和5年度の1・2歳の推計児童数は、5万2,417人となっており、4,087人増えているのはなぜか。</p> <p>同様に、令和4年度の0歳児は2万3,715人、令和5年度の0歳児は2万2,851人となっているので、令和6年度の1・2歳児はその合計数となる4万6,566人になるのではないかと思う。</p> <p>しかし、資料3の令和6年度の1・2歳の推計児童数は、5万1,969人となっており、5,403人増えているのはなぜか。</p> <p>その説明をしてもらいたい。</p> <p>令和3年10月28日の当会議において、「量の見込み」の中間見直しについてご説明しているが、令和3年4月時点の就学前人口が計画策定時と比べて5,796人少ないということで見直しを行うことさせていただいた。</p> <p>そのため、令和4年度から令和6年度の推計児童数については、算出の起点となる令和3年度の就学児童数は実績値の2万4,615人の数字に置き換え、その上で、計画策定のときと同じように、国勢調査を基に政策局が作成している現行の将来人口推計の増減率を使用して出した。</p> <p>ただ、10月28日にお話ししたが、0歳児の減少幅が大きく、直近だと大体毎年1,000人ずつぐら減っているのに対して、将来人口推計だと200人程度しか減らないということなので、0歳児は直近5年間の実績の減少幅を用いて算出している。</p> <p>ただ、そのため、大庭委員の言及のとおり、2か年分の0歳児を足すと、通常はその翌年の1・2歳児ということになるが、そうではなく、0歳児のところは現行に合わせた数字として書いているため、差が生じている。</p>
事務局		
大庭委員		<p>10数人ならわかるが、先ほども言ったが、資料3の令和2年度の0歳児と令和3年度の0歳児の合計数（5万360人）と令和4年度の1・2歳の推計児童数（5万3,034人）の差が2,674人もある。今の説明ではほとんどの委員が納得しないと思うが。</p>
事務局		<p>人口推計は計画の根本に関わるので企画調整課で出している。この人口推計に当たっては、実績から出す方法や現在の減少幅等々で、いろいろ試算をしている。その中で、全体的な傾向としては、年齢別でみると今の減少幅をそのまま適用するような減り方になっている。ただ、そういう意味では1歳から5歳の部分は、減少幅が、毎年度の人口推計の伸び幅と大体同じぐらいになっている。ただ、こちらの児童推計数の補正の状況を見ても分かるのとおり、0歳児の推移が実際の毎年の幅よりもかなり多くなっている。ここの較差が大きいということで、どの形が一番いいのか考えた結果、基本的には毎年の減り幅を基</p>

	<p>大庭委員</p>	<p>本にしつつ、0歳児については、この実態の幅にさせていただいている。</p> <p>逆に言うと、この今までの減り方で見てみると、1歳から5歳のところが減り過ぎてしまうような形も出たので、いろいろと実態も合わせて、こういう計算をしている。</p> <p>その説明では理解ができない。令和3年度の1・2歳児の入所児童数は2万6,251人である。</p> <p>令和6年度の1・2歳児のニーズ割合は、資料3に記載されているとおり、54.8%となっている。このニーズ割合を推計児童数に掛け合わせることで、その年度に必要な入所児童数が算出されると思う。</p> <p>そこで、資料3にある令和2年度と令和3年度の0歳児の推計児童数（2万5,745人＋2万4,615人）を足すと5万360人になるが、それにニーズ割合の54.8%を掛けると、令和4年度は2万7,597人のニーズが見込まれる。令和3年度の1・2歳児の入所児童数が2万6,251人なので、その差額の1,346人分の受け入れ枠が必要となる。</p> <p>同じ考え方で計算すると、令和3年度と令和4年度の0歳児の推計児童数（2万4,615人＋2万3,715人）を足すと4万8,330人になるが、それにニーズ割合の54.8%を掛けると、令和5年度は2万6,484人のニーズが見込まれる。ここでも、令和3年度の1・2歳児の入所児童数が2万6,251人なので、その差額の233人分の受け入れ枠が必要となる。</p> <p>一方、同じ考え方で計算すると、令和4年度と令和5年度の0歳児の推計児童数（2万3,715人＋2万2,851人）を足すと4万6,566人になるが、それにニーズ割合の54.8%を掛けると、令和6年度は2万5,518人のニーズが見込まれる。ここが問題となってくる。令和3年度の1・2歳児の入所児童数が2万6,251人なので、その差額の733人分の受け入れ枠が余ってしまうことになる。</p> <p>令和6年度には受け入れ枠が余ってしまうし、保育士不足も大きな課題がある中で、これからも保育園を整備していく必要があるのだろうか。今の説明では根拠が分からず納得できない。</p> <p>事務局から補足はありますか。</p> <p>0歳児の直近の実績の減少幅と将来人口の毎年の減少幅が、大きく乖離しているというところでは考えたが、1・2歳児と、また、3歳から5歳児は、将来人口推計の減少幅と、当初計画と今回の計算と比べても乖離は少ないということで判断し、この算定を行った。</p> <p>3歳から5歳は定員割れが出ている保育園もある。それらの保育園で1・2歳児の年度限定保育を実施すればよいのではないかと。</p> <p>このまま保育園を整備することで、令和7年度以降、入所児童が少なくなり、保育園が閉園していくことにつながりかねない。</p>
	<p>石井部会長 事務局</p>	
	<p>大庭委員</p>	

石井部会長	<p>大庭委員としては、もう少し現実味のある数字に置き換えて再算出をという御意見でいいですか。</p>
大庭委員	<p>そうですね。</p>
石井部会長	<p>ちなみに、大庭委員が話をしている定員割れの割合については、新規園が定員割れになると思うが、3歳以上の入所状況はどのようなのですか。</p>
大庭委員	<p>途中から幼稚園に通われる方もいらっしゃいますので、3・4・5歳児の空きも半数はあります。そういうことも踏まえて、見直しをしていくべきではないか。</p>
石井部会長	<p>葛飾区で今年、コロナとか色々な要因があったけれども、区内の出生数が大幅に減って、見込みの0歳児を300人ぐらい下回った案件があった。結局、公立保育園の0歳の受け入れを止めることになった。</p> <p>このようなことを踏まえると、定員枠を設ける際も、将来をどのように考えていくかの視点も大事だと思った。</p>
事務局	<p>0歳のところが乖離が大きいということで数字を置き換えたので、確かに過去2か年の0歳児の数を足しても1・2歳児の合計と差が出てくるというところはある。1・2歳から3歳～5歳までは、全市的な将来人口推計、転入、転出等を加味した増減率を実績値に掛けて出しており、全市の中期の計画と同じ考え方のため、御理解いただきたいと思っている。ただ、0歳も将来人口推計の数値を使ってしまうと量の見込みの数値も高くなってしまうため、0歳の部分だけは実績値で置いている。</p> <p>あわせて、大庭委員のおっしゃるとおり、保育所の定員割れについては、園の運営に関わる場所なので、定員枠を増やすというところでは、基本的には既存の施設に、1・2歳を受けていただくということで御協力をいただいている。そのこともあり、0歳児の定員割れで見れば、去年は、0歳児の定員割れの園が726人あったが、実際に0歳児を削減して1・2歳児の方に、1歳児の新規入所の枠を増やしていただく取組もしている。令和2年4月は726人の定員割れから、令和3年4月は639人ということで、利用が横ばいになっている状況にかかわらず、定員割れの人数としては、実は減っている状況。それを踏まえ、施設の御協力をいただきながら、1歳とか2歳で預けたいというニーズに合わせた定員構成の見直しを行っている。</p> <p>待機児童数は、保育士確保が難しい中でも新規園等々を整備いただいて、保育士の確保等々も御協力いただき、令和3年4月は16人まで減っている。保留児童も2,842人と想定している、その中で、育児休業延長の目的の方も、このうち1,100人ぐらいいる。必要でない方も実は応募している現状はあるが、保留児童の中には保育所を希望されてい</p>

		<p>る方が実際にはいらっしゃるので、私どもとしては、必要な場所には必要な整備を行い、保育を使いたいというニーズにはしっかりと応えていきたいというところで、今までも2,155人整備するところから1,290人まで下げているが、ある程度下げた数字でも、必要なところには整備していきたいと考えている。</p> <p>保育園としては0歳から受け入れたいといった意見もあったと思うが、0歳を受け入れないで、1・2歳から受け入れるというのはどのように思いますか。</p> <p>0歳児をやらせないという指導が無いようにしていただきたいと思う。</p> <p>先ほどの事務局の説明についてはいかがですか。</p> <p>全く分からない。資料にある令和2年度と令和3年度の0歳児の推計児童数（2万5,745人＋2万4,615人）を足しても、合計は5万360人になるので、資料3の令和4年度の補正後の推計児童数の欄に記載されている、1・2歳児の5万3,034人にはならない。5万360人にプラス2,674人された理由を局が説明できない限り、根拠のない数字で保育園を整備すべきではない。</p> <p>転入してくる子どもが何人いて、どのぐらいの人口増加が見込めるのかなどの根拠も乏しいので、現実的な数字にすべきである。</p> <p>ありがとうございます。他の委員さんについてはいかがですか。この後、事務局の示したとおり認めるか認めないかという判断をしなければならぬため、皆さんの意見も聞きたいと思いますが。</p> <p>難しいですね。大庭先生のお話も切実なところとして感じる場所もありますし。</p> <p>一生懸命作成したと分かる資料なので心苦しいが、大庭先生のお話もよく分かって、数字的に少し無理があるかなという感じはする。本当は、ほかの議論もできたらと思うが。</p> <p>また、子ども・子育て支援事業計画については、振り返りのときにコロナのことは記述しないというお話だったので、数が減っているというのは、その事実を無しにして、考えに少し無理があると感じる。</p> <p>計画の見直しという点では、年度でももちろん決まっていたことではあるのだろうが、コロナという影響を無しにして、この数字だけでやりますというところに、大庭先生がおっしゃるような現実があり、子どもを一人として見ている人と全体の数字として見ている人の大きな違いが垣間見えたような気がして、この数字では難しいなという気がした。</p> <p>私も、実際の保育現場では定員割れという報道もされていますし、実際に少ないであろうということの御指摘があったこと、それから、</p>
	石井部会長	
	大庭委員	
	石井部会長	
	大庭委員	
	石井部会長	
	荻込委員	
	天明委員	
	新堀委員	

		<p>計算式が単純に見たときに説明がつかないという数字のお話があったのもあり、今回の見込みが一番の基本となっていて、これからの計画に反映されて、しかもそれがこの長いスパンの中で中間見直しというのは、何とかまい道を探して、説明がつけられる基礎数になるといいなとは思う。</p> <p>私自身、推計についての専門性がなく、また保育現場にいないということもあり、どういうことが望ましいかについて主体的な意見は申し上げられないが、ただ、大事な数字なので、ここについては形だけではなく、本当にできるのであれば見直すのか等、議論が必要な点であろうと思った。</p> <p>現場の部分と数字があまりにも乖離していて、定員割れという感覚が保護者のほうにはないという部分も実際にあるので、多分作る流れになるのだとは思いますが、実際に保育現場にいらっしゃる大庭先生が定員割れをしていると言う事実は、大きいと思う。</p> <p>質の向上なんて無理なんて言われてしまうと、新しく園を作りましょうという気持ちにはなれないかなという考えに、私もなってしまう。</p> <p>数字の出し方とかは、具体的なことは申し上げられないが、疑問を持ちつつ、この中間見直しの際に数を作るだけでいいのかというのを常に考えている。こういう機会にもう一度、きちんとした整備に向けての数とかを考えていただけたら、いいと思う。</p> <p>私も、推計児童数の計算がよく理解できず、説明のとおりを考えてしまいがちですが、今日気になっていたのは、定員割れがある既存施設をいかに活用するかというところだと思っていたので、大体その近くに新設園ができると定員割れする施設が多い中で、今までであるところを何とか生かしていくことは、すごく大事だと思い、そうした意見を言おうと思っていた。</p> <p>そもそもの推計児童数が多過ぎるがために、さらにどんどん造ってしまい、定員割れが起こるといのは防がなければならないと思うので、この数値、推計児童数の計算が、先ほどの説明を聞いても、人口動態の推計値を持ってくるといところの、それに置き換えたという部分がよく理解できなかったの、もう少し数字の見直しも必要なのかなと思った。</p> <p>私も、数字については、専門ではないので、分かりにくいところだが、今ある状況としては、見込みの数値と現実がずれていることは事実なのではないかと思う。そのことを考えると、見込みというのは、やはり数字の上での計算ですし、現実には現実、子どもを目の前にした現状なので、そこにずれがあるということは、ここのずれを何らかの方法で解消して、今後の方策を考えていく必要があるのではないかと</p>
森委員		
尾木委員		
大澤委員		

		<p>思っている。</p> <p>私も、推計児童数について読み取りきれないところがあるが、大庭先生のこの資料を見て、すごく何か分かりやすいなと思ひまして、こちらの資料から行くと、既存園の活用、増やすことは保護者にとってプラスかもしれないですけども、やはりこれだけ定員割れが出ている現実があるので、統計だけを見るのではなく、実際の現場の保育園からの声をもう少し聴いて考えられたらよいと思う。</p> <p>あとは、0歳児の受け入れをストップするという現実があるところでは、今はコロナで確かに0歳児を預けないことが増えているかもしれないが、今後コロナが落ち着いてきたら、またそのニーズが増えるので、その点を今後どうしていくのか、気にはなります。</p>
	中丸委員	
	新堀委員	<p>前回の議題と今回の議題は、今回が「確保方策」で前回は「量の見込み」だったと思うが、審議で語る内容の適正さというか、そこはどうでしょうか。前回で既に決まっているものでしょうか。量についてと方策についてと。</p>
	事務局	<p>前回は、それこそ「量の見込み」について御審議いただいて、御了承いただいたということなので、そういう意味では私もは了承いただいた、この人口推計数とかニーズに基づく数に基づいて、確保策を今、御説明させていただいているということになります。</p>
	新堀委員	<p>話を蒸し返してしまい恐縮ですが、この審議会で公開案件となると、何が論点かも、関わってくるかなと思います。</p>
	石井部会長	<p>ありがとうございます。よくよく考えてみると、あれはどうかというふうなところで。気になるということですね。</p>
	新堀委員	<p>技術的に言えば、方策のところ、ではどうするという事の中で検討していくことも、もちろんいくつ園を造るかというのにも関わってくるのでは思ったのですが。</p>
	石井部会長	<p>そうですね。実際の現場の現場感というか、何か実態をどうここに加味するかという、多分今回は、量はもう何か見込みは出ているが、実態としてそれをどう調整するのという話で考えると、この議論はありかなと思いました。</p>
	新堀委員	<p>ちょっとそのあたり、限界といいますか、今日でどこが何をどうできるのかも、私も前回出たので、その責任はあるとは思っていますけれども。</p>
	山瀬委員	<p>前回もお話を伺っているところではあるが、少し数のずれが大きい。当初計画も、今ざくっと計算してみた。そこでも、ちょっとずれてはいるが、当初計画のときのずれよりも、さらに今回、計画を修正してずれが大きくなっているというのは、確かに難しいところがある。もう数は前回のお話で決まったところと言え、そうかもしれないが、</p>

		<p>この数で進めていくと、何かずれがまた大きくなってしまいます。現実とのずれも大きくなってしまわないかなと思う。</p> <p>前回のときのお話で、流入はかなり減っているというお話もあった。流入は減っていて、何千人も来ないですよ。</p> <p>転入は超過の状況は変わらないが、転入する子どもが何千人もいるというわけではないかもしれない。</p> <p>この数ほどは来ないですよ。</p> <p>10月28日の会議の資料3の折れ線グラフをご覧いただければと思いますが、令和2年の推計児童数の当初計画は173,487人、実績は171,503人となっており、令和2年度は近い数字となっている。</p> <p>令和3年の推計児童数の当初計画は171,345人、実績は165,549人となっており、大きくずれたため、令和3年度の推計児童数を5,796人低くする補正を考えた。従って、計画よりも推計児童数は少なくなっている。</p> <p>実際には、駅前の保育園に希望が集中したり、特定の区で希望者が多くなっていることがあるので、全市的にはプラスマイナスを考えながら御議論いただくこととなります。</p> <p>今までのところで、厳しい御意見が皆さんから出ていています。事務局としては、数字を修正するのか、別の数字を根拠にするのか分からないが、人口推計以外の根拠というのはあり得るのか。</p> <p>また、実際の現場、現状との調整みたいなどころではどのように考えるのか。</p> <p>令和3年度における利用児童数の実績の減少は、おそらく横浜だけではなく、ほかの自治体でも起きていると想定されるが、どのように考えているのかなどについて、今の時点で答えが難しければ、もう1度仕切り直して説明していただくことも考えられるが、いかがでしょうか。</p> <p>横浜市としては人口推計を使うのが、通例です。いくつかの手法をばらばらに使ってしまうと、横浜の人口の考え方がばらばらに計算されることになるので、基本的には人口推計を尊重するものだと考える。</p> <p>ただ、人口推計も、5年ごとの国勢調査に基づいて出すことになっており、5年に1回しか更新されない。それに基づいて横浜市も推計をしていくことになる。次回の人口推計は、令和4年の12月を予定しているのですが、データの遅い感じの人口推計を使っているのが実際のところではあるが、今回は、平成27年にやった国勢調査に基づいて、平成29年12月に横浜市が算定した人口推計になる。</p> <p>ほかの数字は持ってこられない中で、今回は令和3年の最新のデータに基づいて、まずは実際の人口に計画値を引き下げたうえで、人口</p>
事務局	山瀬委員	
事務局	事務局	
石井部会長		
事務局		

		<p>推計をもう1回かけ直したということになる。</p> <p>ただ、実際に、数字を見たときにどうかということを見ると、今、特に0歳児は、令和3年は前年に比べてマイナス4.4%です。令和2年は、0歳児は前年に比べてマイナス4.6%という数字になります。これはどういうことかという、マイナス4.6%として0.954倍ですね。こういうものは、どんどん掛け算していくと、おそらく15年後ぐらいには子どもは半分になってしまう計算となる。</p> <p>そういう0歳児の状況は、取り込む必要があると思いましたが、今回については0歳児で、傾きを採用したということです。ただ、傾きを採用すると、例えばですが、ベビーブームのときには数字が膨らむ。第2次のベビーブームがあって、そのときに膨らんだ。第2次のベビーブームの、その後の方が、やっぱりちょっと人口が膨らんでいるんですね。それが今の二十二、三歳ぐらいだと思います。二十二、三歳は人口が少し膨らんでいる。傾きだけ見てしまうと、そういう増えるトレンドが見られなくなってしまうこともありますので、そういった意味では、市役所的な考えかもしれませんが、人口推計を用いるのが、やっぱり一番正しいというような結論になります。</p> <p>0歳を起点にして計算すると、確かにずれが生じるころはあるのは承知しているところですが、基本的な考えとしては、人口推計を用いつつ、0歳児は経年の傾きを用いたということで計算させていただいたのが、今回の結果です。</p> <p>であれば、その経年の傾きが、加味したにもかかわらず、現実とちょっと離れているのではという御意見だったかなと思うが、それについては、いつから回復するか、産み控えているのかどうか分からない状態で、人口推計を使いつつも、0歳のトレンドを加味しているが、その加味というところで、何かもう一つ検討が必要なのではないかという御意見かと思うがいかがですか。</p> <p>繰り返しになりますが、人口推計を採用しつつも経年の傾きを加味したところでは、逆に、人口って何が正しいのでしょうかということ自体が難しい中で、人口推計という、横浜市として頼れるものを頼ったというところで計算をしたものと考えています。</p> <p>今、それがちょっとずれていませんかという話だったから、着地点が分からないでいるが、いかがですか。</p> <p>市との統計データのずれみたいところで、将来人口推計を用いたが、それが課題であるという御意見ですと、例えば、今、手元にはないが、実績値の下がり全部を計算したら多分かなり下がってしまうと思うが、そのようなものも御覧いただくとか。</p> <p>完全に実績値をはめたもののバージョンというような説明でしょう</p>
	石井部会長	
	事務局	
	石井部会長	
	事務局	
	石井部会長	

	事務局	<p>か。今、この推計と、完全に実績値でやったところと、2つ数字を出してみてというような。</p> <p>そうですね。例えば少し見ていただくと、では、将来推計だとこのぐらいなのかなというような。</p>
	石井部会長	<p>そうですね。何かいろんな自治体が、多分これはすごく悩みだと思ふ。この手の推計が今年、来年取れない、取りづらいという状況です。しかも、どこの自治体も今、中間見直しの時期のため、やはり大変なのかなと思ふが、ほかは、どのようにしているかの情報はありますか。</p>
	大庭委員	<p>東京は大変ですよ。がらがらになってきていますから。学校の先生がガイダンスに行ったら、東京に就職は難しいよと言うぐらい、今厳しいですよ。</p>
	事務局	<p>もともと、この子ども・子育て支援事業計画の人口推計のやり方而言えば、いわゆる国勢調査等の人口推計に基づいて計算するので、そういう意味では横浜市も基本的には同じような考え方でやっている。</p>
	石井部会長	<p>それでさっき私がお話ししたが、葛飾区では、300人ぐらい割れてしまっている。結局、公立の0歳児の募集を今年止めましたよということになって、もしかしたら横浜市もそうなるかもしれないという話ではないかなと思ふ。</p> <p>だから、そういうふうに大幅に、大庭委員が心配された、現実とかなりずれが出たときにどうするのかなというのは、多分どこの自治体も悩まれているのではないですかね。</p>
	事務局	<p>ニーズのことについても、コロナで預け控えがあったりとか。葛飾区でされたのは。</p>
	石井部会長	<p>もう全然加味していなかったから、実数がすごいダウンした。それで、公立の保育園が0歳児を受けたら、私立は全然入らなくなってしまう。だから公立を止めますとなり、そうすると兄弟しか入れなくなる。</p>
	事務局	<p>0歳児だけに限ると、横浜市のいわゆる認可保育所、企業主導型等も含みますが、いわゆるニーズ量が平成31年の6,201人、令和2年の6,262人、令和3年の6,113人ということで、大体6,200人ぐらいの横ばいになっている。これは、就学前児童数が減っているが、大体ニーズが横ばいになっているというのが実態です。これも踏まえ、0歳児の保育ニーズについては、大体6,200人ぐらいで横ばいになるだろうということで、計算をしています。なので、実態としては、就学前児童はある程度減っていきながらも、6,200人ぐらいずつニーズはあると考えています。</p> <p>新規に認可保育所等を整備すると、当然、0歳児枠を設定した場合</p>

		<p>は、受入枠が増える分、使いたい人は横ばいなので、定員割れが増えていく恐れがあります。新規園についてはできるだけ、0歳児を設定しない場合には少し補助を上乗せして1歳から受け入れていただくような工夫をしながら、整備をしているところです。</p> <p>なかなか今日の段階で、おそらく委員さんも決めかねる状況なのかなと思います。大変申し訳ございませんが、もう1回どこかで話をさせていただければと思います。子ども・子育て会議の総会が12月3日に予定されていて、それまでに決着をしていきたいと考えています。また、来年度以降の予算にも関わってくるので、12月の市会等でも報告等をしていかなければいけない。そこで、11月中のどこかで、至急、日程調整をさせていただいて、またお集まりいただくということによるしければ、本日は議論を保留とさせていただければと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>それは、この数字を変える方向で検討されるのか。この数字のまま、これをまた出して、またここで会議するわけですか。</p> <p>今の時点ですぐに数字を引き下げますと、逆に言うと、その根拠が必要になりますので、そこら辺も含めまして、御説明をきちんとできるようにしたいと思います。このまま維持しますということ、ここで宣言するつもりもございませんし、根拠ある、きちっとした説明をさせていただくということで、少々お時間をいただきたいと思いますので、御理解いただければと思います。</p> <p>先ほど、山瀬副部長がおっしゃったように、もともとの当初計画ですと、この令和2年、3年の数を足しても1,000人ぐらい。だから、まだ整合性がありますよねという話をされた。そこで、その1,000人増えるのかどうかというところの範囲であれば、まだ説明がつくが、急に補正後に2,600人とか4,000人とか、そのぐらいの差が出ていたので、特にその点について、説明をお願いしたい。</p> <p>ありがとうございます。心得ました。</p> <p>ほかに何か出しておくべき数字の話などはありますか。</p> <p>もしこれをこのまま推し進めるのであれば、少なくとも定員割れについてどういう対処をされるのかとか、これから保育士になる方がほとんど学校へ行っている時期がコロナです。そういった中で、どうやって就職していいかも、なかなか分からない。そういった保育士不足にさらに4月から、ぼんと働いていただける学生さんも少ないとは思いますが。そういった対策をもう少し具体的に出すとかしてほしい。</p> <p>それと、先ほどの画像を見せても納得はしないです。あれを見て、保育士があと100人ぐらい来るのかなとは思えません。だから、現実的に本当に保育士が不足して、かつ、コロナで疲れた保育士がたくさん</p>
	大庭委員	
	事務局	
	大庭委員	
	事務局	
	石井部会長	
	大庭委員	

		<p>いて、そういった現状をもう少しフォローしていただきたい。</p> <p>特に、障害児の話も出ました。障害児に対して保育士が十分に確保できるようにしますとか、前向きな話が一個もないのに、この数字を基に議論はなかなか進められないということです。</p>
石井部会長		<p>この大庭委員の出していただいた定員割れ、この記事にどう応えるかというのは非常に興味深い。転出、転入の実数みたいなものがあったとしてもいいのではないかと。今、どのぐらい流出入があるのか。</p>
事務局		<p>横浜市の全体の統計ですと、未就学児の数字がなく、実数は14歳までとなり、傾向は捉えられるが、保育園児の数字というと難しいです。</p>
石井部会長		<p>そうなんです。あとは何かありますか。こんな数字も入っていたらいいとか。</p>
天明委員		<p>数字が出ないと言っている中で恐縮ですが、全体の人数が減っているにもかかわらず療育が必要な子どもが増えているというあたりの、実感できる数字みたいなものが必要かなと思いました。障害のある子どもが入れないというのは、何かしらの背景があると思う。森委員の実感だけではなく、説得力のある数字があったほうが良いと思うので、そのあたりを教えていただきたい。</p>
尾木委員		<p>できれば、この定員割れの今の状況ですよね。これは4月1日なので、大体秋になれば、入所者数は増えてきますよね。それがどのくらいになっているのかということも知りたい。</p>
石井部会長		<p>あと、局地的に人口減少とかになって定員が満たされない園は、どういうふうな方向に変わっていく方向性をお持ちなのか教えてほしい。例えば、0歳児をやめて、1・2歳の枠を増やすみたいな話しか出なかったが、今の厚労省とかの議論の流れだと、多機能化するべきとか、一時預かりを充実するとか、子育て支援をやっていくとか、定員が割れたところで何をやっていくのみたいな、そういう具体的なものが何かあれば教えてほしい。</p>
		<p>この会議はZ o o mとかにはならないのですかね。対面ですか。親会はZ o o mになっていた。だから、もし参集が難しければ、Z o o m等々の参加もありかなとは思いますが、いかがでしょうか。</p>
事務局		<p>前は少し違ったが、これまで非公開の議事が必ずついていたので、Z o o m開催は難しかった。今回できるかどうか検討しながら早急に調整させていただければと思います。</p>
石井部会長		<p>よろしくお願いします。ほかにございますでしょうか。</p>
新堀委員		<p>4番の部分について、方針としてこうやっていくという、大筋の流れとか、受け入れの不足分はこうするとか、減少分はこうするとか、教育についてはこうするところについては、今日のうちに進められるところがあるのか、ないのかについては、いかがでしょう</p>

石井部会長 新堀委員		か。
	新堀委員	<p>新堀委員、いかがですか。この確保方策。</p> <p>数が決まらなると方針も決まらなるといことならば、今日は無理だろうなとは思。この1,290人が増加分だというのが一応前提となつて、それぞれを、こういうふうにしてやっていきましょうというのが、ここで示されている内容なのかなと思。</p>
大庭委員		<p>基本は、数字が違っていたら妥当じゃないでしょう。無理だと思</p>
新堀委員 事務局		<p>ます。</p> <p>やっぱり数字が決まらなると議論も進まないですね。わかりました。</p>
	大庭委員	<p>質問等は出していただいて、ただ、やはり数字が決まらなると、最終的な、これで進めようといことまではいけないと思なので、考え方とかで、聞いておきたいとか確認したいなどがあれば言っていた</p>
石井部会長		<p>ければと思</p>
	大庭委員	<p>ぜひ、今みたいな方向でも、これはどういことかなでもいいと思</p>
大庭委員	石井部会長	<p>私は前回いなかったなので、初歩的な質問でお恥ずかしいですが、保育の量の確保と教育の量の確保の説明は、何か事前にあつたのか。</p>
石井部会長	大庭委員	<p>教育は、もう幼稚園も入っていますね。</p>
大庭委員	石井部会長	<p>これは幼稚園も入っているといこと。幼稚園、1号、2号で、保育と言つたら2号、3号の範囲といつところですかね。</p>
石井部会長	事務局	<p>ええ。大まかにはそうです。</p>
	事務局	<p>預かりも含めてですね。なるほど。ありがとうございます。</p>
	事務局	<p>ほかに、こういうところでいかがでしょうか。</p>
	事務局	<p>これは、(イ) のところで減少分の議論があるじゃないですか。これが定員の調整を図りますとい話になってくるが、例えば、急激な増減などで何かそういう想定はしないのですか。</p>
	事務局	<p>現時点では、いわゆる少し駅から離れた郊外園等で、預ける方も少なくなっているので定員割れを全体的にしている園はございます。そういうところについては実態に合った、要は入所状況に合わせた定員に少し下げるといものを、段階に御相談していただきながらやっているところがあるので、今のところ、そういうところで少しずつ対応していくことと</p>
石井部会長	事務局	<p>考えております。</p>
	事務局	<p>明らかに予想とずれて空いたみたいなのは想定しないものなので</p>
	事務局	<p>よ</p>
	事務局	<p>そうですね。大幅に減るといよりは、地域によって、減少しているところは引き続き減少するみたいところですね。そういうところは、現状として、その傾向が続くような形になりますので、地域によって増えたり、全体的に減っていく、そこの状況に合わせて定員等々</p>

	石井部会長	<p>については御相談させていただいている。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。無ければ進めますが。</p> <p>当部会の意見としては、今回は保留というところで、また再度、この件に関してのみ検討させていただくということで、どうぞよろしく お願いいたします。次回なるべく決を取れるような形にさせていただく というところで、よろしくお願いいたします。</p>
--	-------	--